

眼 科

眼 科：選択研修

指導医：眼科部長、眼科医長

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の医員、および臨床経験7年以下の眼科医

指導者：病棟看護師長、眼科外来専従看護師

●一般目標（GIO）

一般的な眼の解剖や機能を理解する。検査や診察の方法を理解する。手術や手技の内容を理解し基礎的なものを実践する。

●行動目標（SBOs）

- ・ 患者や家族との信頼関係を確立することが出来る。
- ・ チーム眼科医療を理解し、その中で指導医、上級医と共に医師としての役割を果たすことが出来る。
- ・ 眼科の疾患の病理、病態生理を理解出来る。
- ・ 視力検査など基礎的な眼科検査を実践する。
- ・ 眼底写真など眼科機械を用いた検査を行い、結果を理解する。
- ・ 眼科診察に必要な問診をとる。
- ・ 細隙灯顕微鏡や眼底鏡を用い眼科診察を行い、所見を理解する。
- ・ 手術の内容、手順を理解する。
- ・ 顕微鏡を用いた手術に立ちあい、助手として手術に参加する。
- ・ 眼科緊急疾患の病態を理解し、適切な判断・処置を行う。

●方略

<病棟業務>

- ・ 眼科病棟入院中の患者を主治医とともに受け持つ。
- ・ 担当患者の問診、診察所見、検査結果をもとに指導医、上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。
- ・ 毎日診察を行い、診察内容をカルテに記載する。患者の現状及び今後の治療方針に変化がないか指導医と話し合う。
- ・ 手術が必要な患者については助手として手術に立ち会う。
- ・ 毎日術後診察を行い、感染予防など周術期管理を行う。
- ・ 担当患者に関わる書類（他院への診療情報提供書、入院証明書など）の作製を経験する

<外来業務>

- ・ 眼科外来にて、初診患者などの問診を行う。
- ・ 眼科一般疾患について指導医とともに診察を行い、所見をまとめる。
- ・ 問診、診察をもとに必要な検査をオーダーする。

- ・ 問診内容、診察所見、検査結果から必要な治療を主治医とともに検討する。
- ・ 手技が必要な場合は侵襲の少ないものに関しては指導医立会いの下行う。侵襲が強いものについては見学する。

<救急業務>

- ・ 担当患者の急変に対しては、指導医、上級医とともに直ちに対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
- ・ 平日日勤帯の救急患者に関しては、指導医と共に対応する。但し時間外の急患については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。

<基本的検査および手技および手術>

- ・ 後述する検査、手技、手術を、当初は見学からはじめ、慣れた頃には、可能な範囲で指導医、上級医の指導のもと施行する

<コンサルテーション>

- ・ 他の診療科からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。
- ・ 担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
8:30	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
～	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
12:30					
14:00	病棟研修	手術研修	病棟研修	手術研修	病棟研修
～	外来研修		外来研修		外来研修
17:00					

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。

●参考資料

<基本的検査手技および治療手技>

1. 基本的検査

- 1) 矯正視力検査
- 2) 屈折検査
- 3) 調節検査
- 4) 角膜曲率半径測定

- 5) 眼圧測定
- 6) 眼位検査
- 7) 細隙燈顕微鏡検査
- 8) 眼底検査
- 9) 動のおよび静的視野検査
- 11) 前眼部および眼底写真撮影
- 12) 蛍光眼底血管造影
- 13) 色覚検査
- 14) 涙液分泌機能検査

2. 基本の手技

- 1) 点眼
- 2) 軟膏点入
- 3) 洗眼
- 4) 結膜下注射
- 5) 涙道洗浄
- 6) 睫毛拔去
- 7) 角結膜異物除去

3. 基本の手術

- 1) 球後注射
- 2) 麦粒腫切開術
- 3) 霰粒腫摘出術
- 4) 眼瞼内反症手術
- 5) 翼状片切除術
- 6) 結膜および角膜縫合
- 7) 網膜光凝固術
- 8) レーザー虹彩切開術
- 9) レーザー線維柱帯形成術
- 10) 斜視手術
- 11) 白内障手術
- 12) 緑内障手術
- 13) 網膜硝子体手術